

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02103

研究課題名（和文）ハラスメント問題に対応するソーシャルワーカー養成のための集学的研究

研究課題名（英文）A multidisciplinary study for the training of social workers specializing in harassment problems

研究代表者

中澤 未美子（Nakazawa, Mimiko）

山形大学・大学院理工学研究科・准教授

研究者番号：80777300

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ハラスメント問題に適切に対応できるソーシャルワーカー（Swr）養成について多角的に検討した。研究班は、社会福祉学、医学、臨床心理学、文化人類学の専門家で構成した。文献調査、視察調査、量的調査、インタビュー調査を行った。成果は、ハラスメントに関する授業を実施している教員らへのインタビューを考察した論文と、調査全体をまとめた報告書、学会発表等で確認できる。各調査は、全国のソーシャルワーク教育連盟加入校に協力を依頼した。また、模擬授業も実施し、このアンケートも論文にまとめた（投稿中）。これらの調査を通じ、Swr養成におけるハラスメントに関する教育の実態と必要な授業内容を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ハラスメントに関する研究は、法学、社会学、心理学等からアプローチが見られるが、社会福祉学の視点での論究は少ない。本研究は、福祉現場でも遭遇するハラスメントについて、養成課程での学習の必要性と内容を、一定程度示唆することができた。ハラスメントが多義的であること、発生構造や事例を通じ、解決の困難性を養成課程で把握しておくことは、実践に備える際に重要である。相談現場に出る前に、ソーシャルワーカーが備える知識、物事の見方があるが、本研究を通じハラスメント防止について触れておくべきトピックスを網羅的に周知した意義は大きい。一方で、協力校に限られたため、今後も何らかの方法で同様の試みを継続する必要がある。

研究成果の概要（英文）：This study examined from multiple perspectives the training of social workers (Swr) who can appropriately deal with harassment issues. The research team consisted of experts in social work, medicine, clinical psychology, and cultural anthropology. Literature review, site visits, quantitative research, and interviews were conducted. The results can be found in a research paper discussing interviews with teachers and others who teach classes on harassment, a report summarizing the entire study, and conference presentations. For each survey, we requested cooperation from schools that are members of the National Alliance for Social Work Education. In addition, mock classes and survey by questionnaire were conducted, and the results of the survey were also summarized in a research paper (to be submitted). Through these surveys, we have clarified the actual situation of education on harassment in Swr training and the necessary course contents.

研究分野：社会福祉学

キーワード：ハラスメント ソーシャルワーク ハラスメント防止 ソーシャルワーカー養成

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した2018年度は、日本においてハラスメントという言葉の社会的認知度がより高まった頃と言える。新書や報道でもハラスメントに関する内容を多く見かけるようになった。これらは、2018年5～6月のILO総会における「仕事の世界における暴力とハラスメント」に関する国際労働基準の策定討議も関係しているとも思われる。また、2020年には労働施策総合推進法(いわゆるパワハラ防止法)が改正されるなど、日本国内の法制度の動きも見られた。このような動きがある中、ハラスメントに関する相談件数の増加も影響してか社会福祉士・精神保健福祉士(以下、SWr)養成においても、2020年3月には厚生労働省からSWr養成カリキュラムの改正が示された。この中で「社会理論と社会システム」(改正後は「社会学と社会システム」。以下、指定科目)には、「想定される教育内容の例」として「ハラスメント」が明記された。以上から、社会福祉士あるいは精神保健福祉士を養成する際にハラスメントに関する学びが必要とされていることが分かるが、実際に授業でハラスメントがどのように扱われているかは先行研究においても明らかではなかった。

2. 研究の目的

ハラスメントの発生秩序は、差別や偏見、個人的要因など多岐にわたる。また、ハラスメント問題へのサポート方法も様々な学問領域で点在し、各々に隔たりがあるのが現状であり、相談現場でハラスメント問題の解決を適切に行えているかどうかについての研究は緒に就いたばかりといえる。そこで本研究の目的は、ハラスメント問題への対応に際し備えるべき知識を様々な分野(社会福祉学、医学、臨床心理学、文化人類学等)の視点より整理・分析し、ハラスメント問題に適切に対応できるソーシャルワーカー養成について調査するものである。

3. 研究の方法

文献調査、視察調査、2種のアンケート調査、インタビュー調査を行った。文献調査は、ハラスメントに関連する分野の書籍、報道、諸外国のSWr養成のシラバスを用いた。ハラスメントという言葉自体が日本独特な意味内容で使用されていることが確認できた。また、デンマークに渡航し視察調査を行った。ハラスメントに関する対応が、国・自治体でシステム化されていることから、その現状について南デンマーク大学の研究者、労働組合、国立労働環境研究所、教育機関の校長にインタビューを行った。

アンケート調査は、研究開始時に社会福祉士・精神保健福祉士を目指す学生が学ぶ日本ソーシャルワーク教育連盟加入校約270校にハラスメントを扱っている授業の状況を尋ねた。また、そこで実際に指定科目である教授者にインタビューを行った。これらをもとに、研究終盤にモデル授業を構成し、この授業を受講した約700名の受講者にアンケートを実施した。

4. 研究成果

時系列で主な成果を述べる。まず、2018年度は、文献調査およびインタビュー調査を実施した。文献調査の成果としては、ハラスメントに関連する分野の書籍を幅広くレビューした。具体的には、暴力に関する内容や性的個性に関する書籍、ソーシャルワークの基本的文献などを分析した。また、本研究は様々な分野の専門家が参画している特質があることから、共通する文献を調査しても、解釈や理解が多層である。これらの知見を統合し、ハラスメント問題に適切に対応できる

ソーシャルワーカー養成に関するカリキュラム提案に繋げた。

2019年度は、3つの調査を実施した。第一は、全国のSWr養成校へのハラスメント教育に関する調査票の配布である。調査対象は一般社団法人ソーシャルワーク教育学校連盟の加入校274校とし、郵送法によるアンケート調査を実施した。回答者は、指定科目に対応する授業（授業名は問わない）を担当している者・担当したことがあるものと指定し、67校から回答を得た（回収率24.4%）。また、実際に指定科目に関する授業を担当している教員8名にインタビューを行い、収集したインタビューデータは、質的記述的分析法（グレッグ、2016）を用いて分析した。分析の結果、73個のコード、25個のサブカテゴリー、9個のカテゴリー、2個の中核カテゴリーが生成された。これら生成されたカテゴリーの関連は結果図（図1）のとおりである。結果図から明らかになったSWr養成におけるハラスメントに関する教育の実情から、現状のハラスメント教育を巡る課題について考察したところ、次の3点が認められた。一つ目は、担当教員のハラスメントに関する知識や専門的知見が必ずしも十分ではないことである。二つ目は、ハラスメントというテーマのために受講する学生の心理面への影響に配慮を要することから授業内容等の定め方に関する苦慮が大きいことである。三つ目は、授業時間の確保が難しいことである。これらの課題から、教育にあたっては、様々なハラスメント行為に関心を払いながら、実際のハラスメント事例の分析を踏まえるなどして、教育内容を現状に適合させたものにしていく検討が必要である。また、受講する学生の心理面への影響を考慮した授業内容や方法の構築、「ハラスメント」を軸にし、各領域でのハラスメントを各論にするようなカリキュラム構成による教育も必要であると考えられる。これらは司法福祉研究に論文としてまとめ掲載されている。

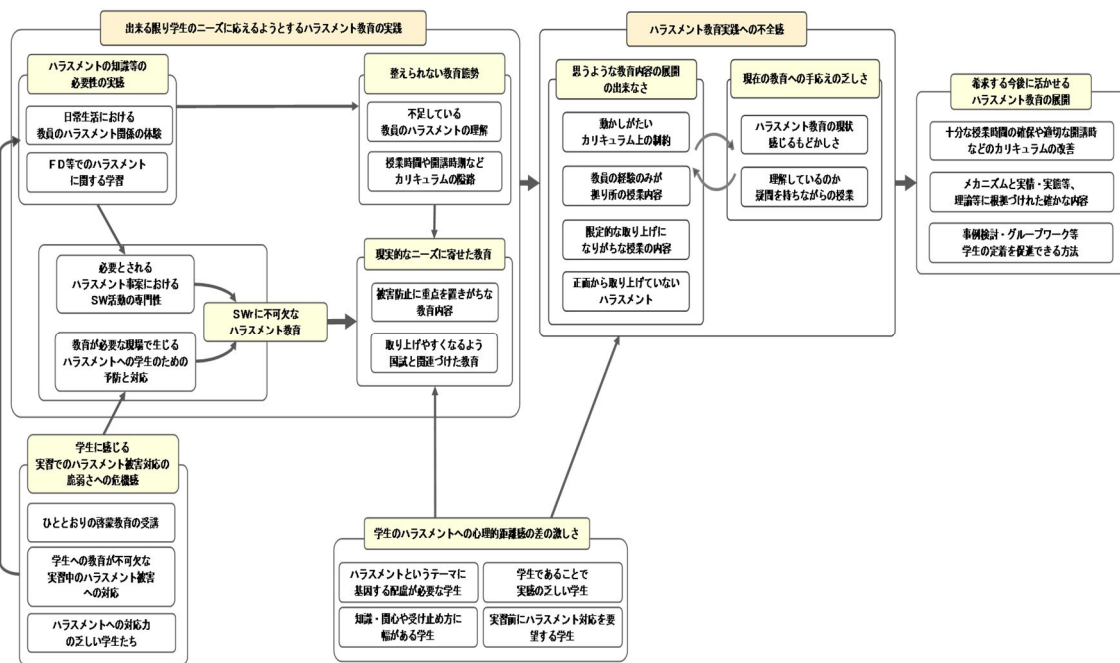


図1 ハラスメント教育の現状

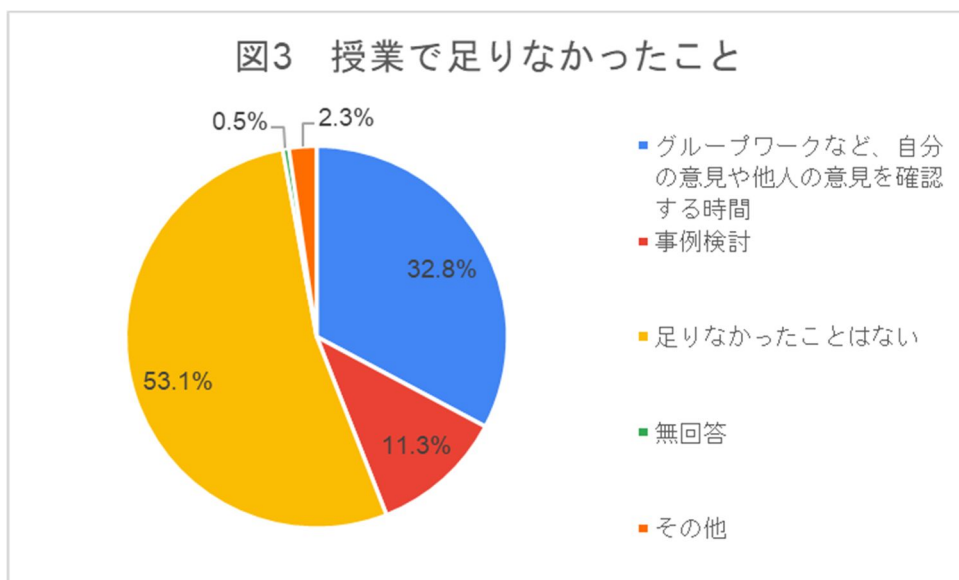
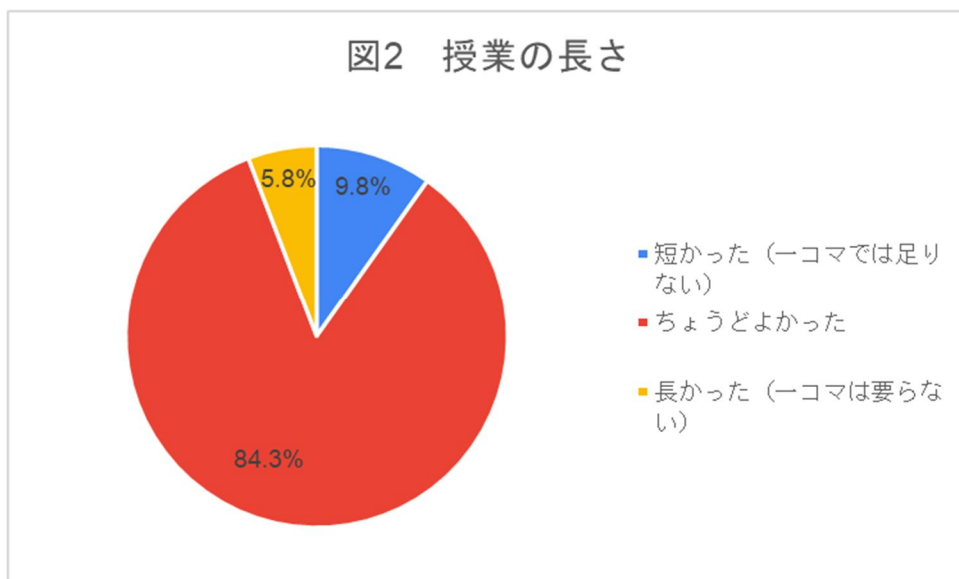
第二は、デンマークへの視察調査である。教育機関およびデンマーク国立労働研究所、労働組合への訪問・ヒアリングをおこなった。ハラスメントや近接概念のいじめの防止対策に関する情報を収集することができた。第三は、インタビュー調査である。2020年1月から3月までに、5名のインタビューを行った。

2020年度には質的調査の一部を発表する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で学会自

体が1年後に延期され発表の機会を逃した。2020年度後半は、日本社会福祉学会において量的調査の成果の一部を発表するとともに、司法福祉学会にて質的調査の一部を発表した。これらの動きと並行して、文献調査や、専門的知見から昨今のハラスメント報道に関する知見の共有を行った。

2021年度は、上記の成果を基に作成したモデル授業を行った。具体的には、2021年3月に日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校へ研究協力に関する依頼文書を郵送し、応諾した教育機関23校（オンライン含む）において2022年9月までの間にモデル授業を実施した。授業の目的は、「各種ハラスメントの定義や現況等を理解し、ハラスメントが起こる原因、解決方法、防止について理解する」とした。時間は90分一コマとし、構成は、オリエンテーション（研究説明・倫理的配慮）、授業の流れ、ハラスメントの基礎知識、どうしてハラスメントが起こるのか、ハラスメントを巡る現状（統計・関連法規・社会運動・判例や報道・映像作品の紹介）、ハラスメントの被害者について（事例）、ハラスメントの加害者について（事例）、SWrとしての対応方法、まとめ、とした。そして授業終了直後から1週間の間に受講生に対してアンケート調査を行った（回答者数772名）。このアンケートにより、ハラスメントを扱う授業について、

時間は90分が妥当であり（図2）講義に加えて事例検討やグループワークによる実践での対応力に繋がる内容が求められていることが示唆された。（図3）受講歴の有無や受講時の年齢、将来就きたい分野の違いによって回答の差はみられず、授業内容は、SWr養成課程学生の進路志向によって変える必要はないことが示唆された。



文献

坂野 剛崇、中澤 未美子、ソーシャルワーカー養成におけるハラスメント教育の現状と課題、
司法福祉学研究 21、2021

グレッグ美鈴編著『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして 第2版』医歯薬出版、2016

日本社会福祉学会第70回秋季大会、国内会議、2022年10月、ソーシャルワーカー養成におけるハラスメント防止教育 模擬授業のアンケートデータから、ポスター発表

日本社会福祉学会 第69回秋季大会、国内会議、2021年9月、ソーシャルワーカー養成に必要なハラスメントに関する理想の講義 アンケート調査とインタビュー調査の“理想”に焦点化した予備的検討、ポスター発表

日本社会福祉学会 第69回秋季大会、国内会議、2021年9月、ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の検討(その2) 授業担当者へのインタビュー調査を通して、ポスター発表

日本司法福祉学会、国内会議、2021年2月、ソーシャルワーカー養成におけるハラスメント教育の現状と課題、ポスター発表

日本社会福祉学会、国内会議、2020年9月、ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の検討 養成校へのアンケート調査から、口頭発表(一般)

日本社会福祉学会 第68回秋季大会、国内会議、2020年9月、ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の検討、ポスター発表

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 坂野剛崇、中澤未美子	4. 巻 21
2. 論文標題 ソーシャルワーカー養成におけるハラスメント教育の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 司法福祉学研究	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 桑島薫	4. 巻 13
2. 論文標題 母と子の未来へまなざし：母子生活支援施設カサ・デ・サンタマリアの25年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中部福祉学研究	6. 最初と最後の頁 125-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 桑島薫	4. 巻 20
2. 論文標題 When Sexual Violence Strikes Within the Sanctity of Marriage - Japanese Society's Invisible Problem	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名城論叢	6. 最初と最後の頁 145-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Matsuo K, Ichihara K, Gotoh M, Masumori N.	4. 巻 25
2. 論文標題 Comparison of the Uroflowmetry Parameter Results Between Transgender Males Undergoing Gender-Affirming Hormone Therapy and Age-Matched Cisgender Females: Preliminary Data.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Transgend Health	6. 最初と最後の頁 152-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 銭本隆行	4. 巻 4
2. 論文標題 デンマークの高齢者ケアシステムの日本への有効性について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医療大学紀要	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂野剛崇	4. 巻 2
2. 論文標題 心理支援専門職教育におけるスーパーヴィジョンの意義と課題 - 大学院生3名の語りに対する質的記述的研究法による分析から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西国際大学心理臨床紀要(2)	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 葛分綺・中澤未美子・李明憲・内川菜月・吉村和代・深見久美子・千賀則史・佐竹圭介・細野広美・大塚彩乃・細野康文・山内浩美	4. 巻 第39巻第2号
2. 論文標題 大学におけるハラスメント相談・防止体制および相談員の役割に関する検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学生相談研究	6. 最初と最後の頁 95-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久桃子・佐竹圭介・細野康文・大塚彩乃・葛分綺・千賀則史・中澤未美子・深見久美子・吉村和代・内川菜月・山内浩美	4. 巻 第39巻第2号
2. 論文標題 大学におけるハラスメント相談体制の現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学生相談研究	6. 最初と最後の頁 118-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計48件（うち招待講演 27件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の現状と課題
3. 学会等名 日本司法福祉学会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 中澤未美子、坂野剛崇、徳広圭子、銭本隆行
2. 発表標題 ソーシャルワーカー養成に必要なハラスメントに関する理想の講義
3. 学会等名 日本社会福祉学会第69回秋季大会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 徳広圭子、中澤未美子、坂野剛崇、銭本隆行
2. 発表標題 ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の検討（その2）
3. 学会等名 日本社会福祉学会第69回秋季大会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 松尾かずな、松川宜久、中澤未美子ら
2. 発表標題 マルファン症候群、ロイス・ディーツ症候群及びエーラス・ダンロス症候群患者の排尿と性功能に関する研究
3. 学会等名 第109回日本泌尿器科学会総会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 中澤未美子・徳広圭子・銭本隆行
2. 発表標題 ソーシャルワーカー養成におけるハラスメントに関する教育の検討
3. 学会等名 日本社会福祉学会第68回秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 ハラスメントの最新事例と相談現場におけるパワハラ防止法
3. 学会等名 山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 オンライン時代のハラスメント
3. 学会等名 公立大学法人 長野大学（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 デンマークの教育機関におけるハラスメントおよびいじめ防止について
3. 学会等名 "人間と性" 教育研究協議会山形サークル（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑島薫
2. 発表標題 「自立」とケアの間：女性保護施設における「回復」の過程
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桑島薫
2. 発表標題 他者の痛みの接近：DV被害者の一時保護施設における支援から自他関係を考える
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂野剛崇
2. 発表標題 ソーシャルワーカー養成におけるハラスメント教育における現状と課題
3. 学会等名 日本司法福祉学会オンライン研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中澤未美子・吉村和代・澤田佳代・可児由香
2. 発表標題 ソーシャルワークの相談機能の充実 大学におけるソーシャルワーカーの実践よりー
3. 学会等名 日本学校ソーシャルワーク学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 アカデミック・ハラスメントの加害者対応に関する一考察 ～デンマークの対人援助職への創作事例を用いたインタビューを通して～
3. 学会等名 平成30年度日本精神保健福祉士学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 ハラスメントに関する法整備の現状－ハラスメント相談の実践を通して見えてくるもの－
3. 学会等名 淑徳大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 ハラスメント対策研修会 - 創作事例を用い、個人・組織への影響を考える -
3. 学会等名 山形県公立大学法人（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 LGBTQ+について対人援助職の視点から伝えたいこと
3. 学会等名 名古屋大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 多様な学生が、いきいきとした学生生活をおくるために～LGBTQ+などの性的個性の理解と対応～
3. 学会等名 大学コンソーシアム山形（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 ハラスメント防止におけるキャンパスソーシャルワーク - 大学の " 多様性 " の導入
3. 学会等名 キャンパスソーシャルワーク全国ネットワーク（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 今、大学のハラスメント防止に求められることー様々な事例をもとに考えるー
3. 学会等名 山形県立産業技術短期大学校（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 今、セクシュアリティの悩みにカウンセラーが関わるということー新たな時代の心理支援ー
3. 学会等名 特定非営利活動法人 TTSファミリー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳広圭子
2. 発表標題 「教育相談とスクールソーシャルワーク」
3. 学会等名 岐阜県免許状更新講習・選択科目（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳広圭子
2. 発表標題 「保護者に対する相談支援」「虐待予防」
3. 学会等名 岐阜県保育士等キャリアアップ研修（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳広圭子
2. 発表標題 「教育相談とスクールソーシャルワーク」
3. 学会等名 岐阜県免許状更新講習・選択科目（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桑島薫
2. 発表標題 公開講座「DVの現状と女性のココロとカラダ」講師
3. 学会等名 2018年5月24日 名古屋市西生涯学習センター主催（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂野剛崇
2. 発表標題 犯罪加害者家族の支援に関する研究 - セルフヘルプ・グループの意義 -
3. 学会等名 法と心理学会第19回大会(兵庫県尼崎市)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂野剛崇
2. 発表標題 少年の社会復帰に関する研究 - 更生保護施設を退所した少年の非行と回復のプロセス
3. 学会等名 日本犯罪心理学会第56回大会(奈良市)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂野剛崇
2. 発表標題 いじめについて考える
3. 学会等名 村野工業高校教員研修(神戸市)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松尾かずな
2. 発表標題 医療従事者・大学教員が知っておきたいLGBTに関する最新知識
3. 学会等名 首都大学東京健康福祉学部・人間健康科学研究科FDセミナー(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松尾かずな
2. 発表標題 多様性を生きる～生と人権～
3. 学会等名 中区障害者自立支援講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松尾かずな
2. 発表標題 LGBTから見た人権～TTSファミリーの活動を通じて～
3. 学会等名 名古屋市中区講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 徳広圭子
2. 発表標題 スクールソーシャルワークの基礎
3. 学会等名 岐阜県社会福祉司会・平成30年度第1回スクールソーシャルワーカー研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 徳広圭子
2. 発表標題 メゾプラクティスに対するロールプレイ
3. 学会等名 岐阜県社会福祉司会・平成30年度第3回スクールソーシャルワーカー研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 修士課程修了後のキャリア形成 [シンポジスト]
3. 学会等名 日本社会福祉学会中部ブロック部会2018年度春の 研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 大学におけるハラスメント事例 に対する援助プロセス [口頭発表]
3. 学会等名 日本学生相談学会第36回 大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 財団法人野村財団 女性が輝く社 会の実現に関する講演会[企画者・司会]
3. 学会等名 名古屋大学ハラスメント 相談センター・名古屋大学男女共同参画センター 主催 / 野村財団講演会等 助成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 様々な性的個性のある者へのソ ーシャルワーカーの支援に関する一考察 - 大学で働くソ ーシャルワーカーへのインタビューの 分析 - [口頭発 表]
3. 学会等名 日本学校ソ ーシャルワー ク学会第13回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 大学教員から大 学生へのアカデミック・ハラス メントに関する意識調査[ポスタ ー発表]
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回 秋季大会論文集
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 性別違和を感じる当事者の親に対する家族会活動の機能と役割 [口頭発表]
3. 学会等名 第38回日本性科学会学術 集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「ハラスメントの防止に必要な知識」
3. 学会等名 名古屋学芸大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「ハラスメントの防止について考える」
3. 学会等名 特定非営利活動法人障がい者自立支援センターなごや（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「指導 / ハラスメント / 体罰 その境界をどう見るか？」
3. 学会等名 長野大学 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「ハラスメントに関する最新の動向」
3. 学会等名 岐阜聖徳学園大学 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「多様性が尊重される社会のつくり方 ハラスメント防止の観点から 」
3. 学会等名 名古屋市立高等学校教員組合 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「ハラスメントの理解 - セクハラを中心に - 」
3. 学会等名 岡崎女子大学 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「ハラスメント防止啓発研修」
3. 学会等名 愛知県立大学（相談員）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「ハラスメントを受けたときの具体的な対応方法」
3. 学会等名 愛知県立大学（教職員）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤未美子
2. 発表標題 「発達障害の学生対応においてハラスメントの加害者とならないために」
3. 学会等名 桜花学園大学（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 錢本隆行
2. 発表標題 住民参加型の高 齢者ケアシステムに関する考察 - 日本とデンマークの自治体の取り組みを通して -
3. 学会等名 日本社会福祉学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 共訳 桑島薫、水野友美子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 696
3. 書名 ヴィータ遺棄された者たちの生 原著VITA Life in a Zone of Social Abandonment	

1. 著者名 坂野剛崇	4. 発行年 2019年
2. 出版社 遠見書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 少年法制における非行少年への心理支援	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	徳広 圭子 (Tokuhiro Keiko) (30278452)	岐阜聖徳学園大学短期大学部・その他部局等・教授 (43704)	
研究分担者	坂野 剛崇 (Sakano Yositaka) (90735218)	大阪経済大学・人間科学部・教授 (34404)	
研究分担者	松尾 かずな (Matuo Kazuna) (80732677)	名古屋大学・医学部附属病院・病院助教 (13901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	和田 尚子 (wada Hisako) (70795070)	名古屋大学・国際機構・特任講師 (13901)	
研究分担者	銭本 隆行 (Zenimoto Takayuki) (20799960)	日本医療大学・保健医療学部・参事 (30127)	
研究分担者	山口 薫（桑島） (Yamaguchi Kaoru) (50750569)	名城大学・経営学部・教授 (33919)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関